

中経**論壇**

経営支援NPOクラブ理事

宮崎 清

あるNPOを通じて、海外留学生(大学院生)との「1対1交流」を始めてから5年が経った。きっかけは、日本と海外を行き来した長い商社マンの経験が、日本で勉強している海外留学生の役に少しでも立てればとの思いだ。海外留学生に日本のことよりよく理解してもらいたいといふ気持ちからであった。活動は、週に1回約1時間半の面談を基本としている。具体的な活動内容は、勉学する。

教えて、教えて、 教えて、教えて、 教えて、教えて、

ただ、少しでも学

心掛けている。

生に良かれと思つてしたことが、失敗に終わったこともある。日本での就職を考えていない学生だったので、宿題を出したり、質問をしたりして、いつの間にかと題す。留学生の知りたいこと、悩みことは学生によつて大変多岐にわたつていて、答えに窮ることもある。留学生の半数以上は卒業後の進路として、日本企業への就職を希望していくので、おもと就職試験のところ、日本の企業での仕事の仕方などのが会話の中心になる。留学生が口に向いては、自分の勉強が忙しいので、1対1交流はお休みにしたいと語られ、それつきになつてしまつた。独りよがりはいけないと反省した。この経験に懲りてからは、自分が何かを教えるといふ何かを教えるといふのは、自分のほかにしか知らないことなどがである。ちなみに新聞や本に書いてあることかうよりも、学生の話をほうかがいしれない、現在の中国の姿が垣間見え、留学生との交流に興味は尽きない。

ただ、少しでも学ぶことは、日本語があまりしゃべれないので、日本語の会話を詰まると、英語での会話と漢字での筆談をしている。最初は互いの意思の疎通をはかるのに苦労したが、最近はかなり広範囲の話題で場が盛り上がっている。いまの日本の大学院では、日本語がほとんど出来なくても、英語での授業で単位は十分どれるとのことで、ずいぶん国際化されてしまったなと思う。教えるばかりではなく、留学生との会話を通じ、私自身、中国の若者との考え方や、家族関係やりの経験に懲りてからを知るなどがである。ちなみに新聞や本に書いてあることかうよりも、学生の話をほうかがいしれない、現在の中国の姿が垣間見え、留学生との交流に興味は尽きない。

若い留学生との交流は、年々老けていくといふ感覚で、心がるを得ない思ひを自覚せざるを得ない印象を抱く。心地よいフレッシュな出来事もあり機会となつてこね。